

令和5年度(2023年度) 学校評価書

学校名	北海道南茅部高等学校
-----	------------

学校関係者 学教運営協議会委員 14名

1 学校教育目標

確かな学力を培い、自主的で心豊かなたくましい生徒を育成する。

2 スクール・ミッション

- 地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成
- 生涯にわたって学び続ける姿勢をもち、協働的に社会に参画することができる生徒の育成

3 年度の重点目標

探究的な活動を取り入れた教育活動を推進し、学びに向かう力を育成する。

4 自己評価結果

評価基準

A:達成している B:おおむね達成 C:やや不十分である D:不十分である

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

A 適切切な評価である(4点) B ほぼ適切な評価である(3点) C やや不適切な評価である(2点) D 不適切な評価である(1点)

(2) 改善に向けた取組の適切さ

A 十分な効果が期待できる(4点) B ほぼ十分な効果が期待できる(3点) C あまり効果が期待できない(2点) D 全く効果は期待できない(1点)

領域	重点事項	評価の観点	達成状況	改善・充実の方策	(1) 自己評価の適切さ	(2) 改善に向けた取組の適切さ
I 学習指導	① ICTを効果的に活用し、「わかる授業」の実践を図り、基礎・基本の学力を定着させる。	① ICT や教科研修などに積極的に参加し、授業改善に取り組むことができたか。	A	①校長による年2回の授業参観、ICT の積極的な活用、対話による研修の推奨等、ミドルリーダー、若手教員を中心に改善が進んだ。今後も対話を重視した改善に取り組む。	A	A
	② 探究活動を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、自ら課題を発見し、考察し、表現できる能力を育てる。	② 各教科及び総合的な探究の時間において、生徒一人一人が課題を設定し、地域資源の活用や地域課題の理解が進んだか。	B	②探究活動を意識した取組の初年度としては概ね達成できた。今後は地域を舞台に、身近にある良さを学びにして、発信できるように育む。		
	③ 少人数指導の特性を生かし、個に寄り添った授業を推進し、主体的に学ぶ意欲を高める。	③ T-base のメリットを生かした多様な科目選択、習熟度別学習や家庭学習など、個に応じた指導が推進できたか。	A	③個に応じた取組は概ね達成できた。一方で義務教育段階の着実な学力の習得、主体的な学びについての課題を分析・検討し、さらに最適化を図っていく。		
	学校関係者の意見	○授業改善は、体験入学の際の授業体験にも見られ、「わかる授業」が進んでいることがわかった。 ○少人数に合った教育課程や教育内容を工夫し、個に応じた個を伸ばす学習指導をさらに進めてほしい。				
II 生徒指導	① お互いを尊重し合う良好な人間関係づくりを進め、いじめのない安心・安全な学校をつくる。	① 日常的な観察やアンケート、面談の結果からいじめ対策組織で、いじめの未然防止、早期発見・早期対応が円滑にできたか。	B	①今年度の認知件数は1件であり、解決することができた。また、校内組織、学校基本方針を見直し、毎月いじめに関する生徒情報の共有を行い、早期発見・早期対応に努めている。	A	A
	② 行事の良さを再発見し、生徒一人一人の自己有用感を高める。	② 各種行事や外部との事業において、生徒が活躍する場面を増やし、生徒自らが企画、運営、振り返りをすることができたか。	A	②中学生体験授業など、生徒自身が企画・運営する場面を意図的に設定し、主体的な態度を身に付け、多様な見方・考え方を推進できた。今後も継続し、行事運営を通して「学びの主体は生徒」であることを促進する。		
	③情報モラルを適切に身に付け、積極的に情報社会に参画する態度を育てる。	③ 講演や啓発を通じて SNS 等の適切な利用について理解を深め、様々な活動場面に応じた ICT の利活用が進んだか。	B	③講演会や授業、HR 等を通じて、情報活用の良さやリスクを理解させてきた。特に1年生は重点的に早期に実施することが肝要であり、次年度も引き続き行っていく。		
	学校関係者の意見	○幼い頃からの固定化した人間関係に起因した問題等ある場合は、小中高の連携した対応・取組が必要である。 ○学校が抱える問題について、可能な範囲で教えてもらえれば、地域の情報を提供するなどして協力したい。				
III 進路指導	① 生徒個々の適性を見極め、生徒一人一人に適切な勤労観・職業観を育てる。	①異校種との連携を強化し、キャリアパスポートを活用するなど、早い段階からのキャリア教育の浸透を図り、インターンシップなど計画的に実施できたか。	B	①異校種の連携、インターンシップなどは計画的に実施できた。一方でキャリアパスポートの活用やそれぞれの活動の関連性を強化することが課題となった。改めて3年間で育てたい資質・能力を認識し、積極的な支援に努める。	A	A
	②進路希望の実現に向け、主体的に進路について考え、必要な知識を習得しようとする態度を育てる。	②面談など個別指導を計画的に進め、生徒の実態、保護者の考えなどを踏まえ、進路希望の実現に向けた支援ができたか。	B	②生徒・保護者との面談の実施、いろいろな大人との面接練習など頻繁に実施し、3年生については希望を実現した。1・2年生のキャリア支援について、組織的な対応が求められており、他校の取組などを参考に早期指導に努める。		
	③ FU、BS コースの特色を生かし、卒業後のステージでも活躍できる資質・能力を育成する。	③生徒の向上心を醸成させ、講習や模試の受講、検定や資格取得など必要なスキルを着実に身に付けさせることができたか。	B	③主体的な進路活動やワンランク上の進路希望を持たせ、努力し続ける指導に課題があり、校外の資源である T-base や協力校との連携、検定試験の推奨に一層努めていく。		
	学校関係者の意見	○進路選択について考えさせる教育活動が多く設定されていることがわかった。さらに進路意識を高める取組を継続してほしい。 ○少人数のよさを生かし、個々の意識や資質・能力を伸ばし、進路目標を達成する取組や工夫を進めてほしい。				
IV 健康・安全指導	①教育相談活動を充実させ、生徒一人一人の心の健康維持に努める。	①こどもカウンセリングや面談、サポート委員会等を通じて、教員間で情報を共有し、保護者、SC、SSW と連携するなど、適切な支援ができたか。	A	①関係組織を中心に、計画的に実施できた。また、生徒や保護者の困り感を外部の専門家と共有しながら適切に進めることができた。	A	A
	② 健康教育やモラル教育をすすめ、健全かつ健康的な生活を心がける資質を身に付ける。	②HR 活動、講演会、授業や保健だより等を通じて、健康の大切さ、倫理観を醸成することができたか。	A	②学年の枠を越えた合同体育の実施など、あらゆる教育活動を通じて、健康の大切さや倫理観の醸成について理解の浸透に努めることができた。		
	③防災や防犯、交通事故など危機管理意識を高め、自助、共助を理解し、適切に行動できる資質・能力を育成する。	③地域の特性を理解し、こども園との合同避難訓練や警察と連携した防犯教室などを計画的に実施し、理解の浸透が進んだか。	A	③計画どおり実施できた。今後は予定調和な訓練ではなく、様々な場面を設定し、自助、共助ができるかに取り組む。		
	学校関係者の意見	○高校とこども園が連携した「1 日防災学校」の取組は、年齢に応じ求められる避難行動を学ぶだけでなく、職員同士の連携・協力によって地域防災の意識を高める機会にもなっている。 ○「1 日防災学校」は高齢化が進む中の地域防災の観点から、高校生に求められる役割の意識を高める機会であるばかりでなく、より広範囲な防災訓練への可能性のある取組である。				
V 働き方改革	①学校運営協議会を通じて、地域の思いや考えを魅力ある学校づくりに反映し、実行する。		B	今年度が初年度であったが、地域資源の活用や学校存続について、委員からの意見を踏まえた学校運営に努め、魅力ある学校づくりを推進した。	A	A
	②地元の中学生、小学生及びその保護者、学校関係者に自校の取組や実践を発信し、地域の教育ニーズに応える。		B	前期に資源を集中して情報発信や地域との連携に努めてきたが、伝わりきらないことがあり、今後の課題である。		
	学校関係者の意見	○学校通信は紙ベースで地域に配付されているが、可能な学校などはデジタル配信も検討してほしい。 ○縄文まつりなど地域の行事において、高校は積極的に活動に関わってくれており、今後とも協力をお願いしたい。 ○体験入学や部活動交流、教員相互の授業見学など、中高の連携は次年度も継続し、可能な取組があれば小高の連携も検討してほしい。				